HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	サブカルサプリ第26回 : 祝「アニ玉祭」開催！他が真似できない「埼玉らしさ」
Author(s)	山村, 高淑
Citation	埼玉新聞
Issue Date	2013-10-19
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/53422
Type	column
Note	埼玉新聞2013年10月19日版, 特集「サイタマニア」アニ玉祭号外, p.2
File Information	20131019Saitamania subcul supple No.26.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

山村高淑教授の

サブカルサプリ

アニメや漫画の舞台地が多いサブカル王国・埼玉。その魅力を「アニメツーリズム」の専門家、山村高淑氏が紹介する。

祝「アニ玉祭」開催！

他が真似できない「埼玉らしさ」

しゃれ分かる粋な行政

大宮ソニックシティオープン25周年、そしてアニ玉祭開催、心からお慶び申し上げます。

そして正直に申し上げます。こういう混沌とした味のあるイベントが開催できる埼玉県がうらやましい。とりわけ、県と公益財団法人が主催でありながら、「ソニック」つながりというだけで（笑）公式イメージガールにすーぱーそに子さんを登用したその勇気。ファン目線がしっかりあるが故の勇気。しゃれが分かる粋な行政に心から敬意を表します。

近年、全国各地でアニメを主題にしたイベントが開催されていますが、結局どこも同じようなイベントになりつつある。でも全てがお台場や幕張のようになってしまったらつまらない。そんな中、埼玉は他の追随を許さない、異様な個性を放っています。それはもちろん、個性的で味のある良い作品に恵まれていることが大きいのですが、それを活かしていく文化がしっかり定着している点も重要です。

それは、「地域文化」「著作権者側の企業文化」「ファン文化」という、異なる三つの文化の絶妙なバランスです。これらが共存し、遊び心を大切にしながらがっちりタッグを組みつつも、それぞれがしっかり主張し楽しんでいる。単なる観光見本市でも、版権ビジネス商談会でも、ファンイベントでもない。鷲宮の土師祭がその典型例だと思うのですが、一見混沌としているように見えて、実は各主体の深い相互理解のもと、しっかりと協力関係が構築されている。埼玉のアニメ聖地イベントの居心地の良さの理由はそこにあるのだと思います。

熱い裏方魂、先見の明も

こうした「埼玉らしさ」が生まれたのは、地域、著作権者、ファンの皆さんそれぞれのご努力があったからに他ならないのですが、ここでは、県観光課さんの「すごさ」に触れておきたいと思います。

同課は、『らき☆すた』TV放送翌年の2008年4月、ウェブ上に「ちょ～でぃーぷな観光協会」を開設。県内のアニメ聖地情報などを世界に向け発信し始めています。その先見の明たるや、さすがです。

そして09年度には、アニメ制作者や漫画家等で構成する「埼玉県アニメツーリズム検討委員会」を設置。今や伝説となった事件なのですが、同会議でメンバーが雑談ぼく（いや、真剣に！）議論していた「アニメの制服を県内の高校で採用したらどうなるか？」という話を、観光課さんがごく自然に報道各社にリリース（！）したんですね。お蔭でネットは大炎上（笑）。そうした観光課の広報における話題作りのうまさには、委員一同冷や汗…いや心底脱帽しましたし、観光課が率先してそうした自由な議論の在り方を示してくれたことで、その後、各市町村も随分動きやすくなったのも事実です。

アニ玉祭にも、そうした観光課の熱い裏方魂が込められています。他府県行政には真似できない魅力です（笑）。

初日19日のトークセッションでは、元県観光課職員で現神川町副町長の島田邦弘氏と、不肖私とで、このあたりの話をディープにさせていただく予定です。皆様のご来場をお待ちしております!!

●プロフィール
やまむら・たかよし：北海道大学観光学高等研究センター教授。埼玉県アニメツーリズム検討委員会座長。